

## 「どうしよう！子どもの乱暴な言葉遣い」

人のことを「お前」と呼んだり、「バカ」「うざい！」など相手をののしる言葉を使ったり、子ども達は成長する中で多くの言葉を習得しますが、中には使って欲しくない言葉も覚えてしまいます。

でも、これは、幼稚園や小学校など新しい人との出会いの中で様々な言葉に触れ新たな知識を習得している事の証拠でもあります。

また園や学校だけではなく、例えばお父さんが乱暴な言葉を使っていたり、テレビの主人公が汚い言葉を使っていたら、子ども達はそれが「悪い言葉」とは認識せずに使ってしまうようになります。

そこで、大切なのは叱り方。頭ごなしに「ダメ！」では何も解決しません。

例えば、「〇〇しろ！」と命令ばかりしている子どもがいたら、「自分が何かしてもらいたい時は、お願いしなくてはいけないよ。出ないと誰もお話し聞きたくなくなっちゃうよ」と理由を含めて説明しましょう。

また、上手く言葉で表現出来ない気持ちを暴言にのせて口走ってしまう事も良くあります。

そんな時は、「こう言えば言いんだよ」と正しい言葉の使い方を教えてあげると良いですね。

そして、絶対に使ってはいけない言葉（相手の存在を否定するような言葉）には、叱る事も必要ですが、「自分が言われたらどう感じるか？」と問いかけてみて、考えさせることが大事です。

相手の気持ちを考えさせる事を根気よく続けると子どもの「想像力」を鍛える事にもつながります。

乱暴な言葉遣いの原因の一つには、私達大人の言葉の悪さもあります。

子ども達は聞いていないように見えて、大人たちの何気ない会話を聞いています。

「子どもだからわからないだろう」ではなく、自身の言動は常に子ども達の見本になっているという意識を持つ事も大切ですね。